



ホームページ「Chiaki's home」

江見

千秋

独り言

2000 年

江見

千秋



表表紙の「独り言」の書は、

「書道村」主宰の

川戸翠紫先生に書いていただきました。

やはり初日の出はすばらしい！

2000.1.10

今年は例年と違い、ミレニアムを祝う年であるはずであるが、一方ではY2Kという誰にも結果が説明できないような問題を気にしながら迎える新年でした。

大丈夫と思いながらも、「どうなるか？」と多少の興味心と心配心で迎えたカウントダウンだったが、例年と変わりはないかった・・・。

新しい年に時計の針が回り、TVも各地の年越し風景を流し、パソコンも問題なく動いていることを確認した後はまったく

1

例年と変わりなく・・・6時に起き出し海岸に初日を出迎えに行きました。

やはり初日の出はすばらしかった！

Y2Kなどに全く関係ない自然は本当に美しいものでした。太陽は新年だとかミレニアムだとかに関係なく水平線から顔を出した筈です。それにもかかわらず、やはり初日の出はすばらしい！と思うのは、自分が新年と言う言葉や気持ちに左右されるからだと思います。何時でもものを見たら「すばらしい！」と言える気持ちで居たいものですが、残念ながら、そのような気持ちを常に持続することは難しいようです。

2

そうであれば、なんでもよいからはじめあるいはマイルストーンを見つけ、その時だけでも「すばらしい!」と言える気持ちになりたいと思います。そうすれば、心身ともにリフレッシュされること間違い無しです。

それにしても、Y2K問題で休日返上で待機された方々は本当に御苦労さまでした。改めて新年の祝杯をあげてください。

お互いに2000年を良い年にしましょう!



3

少子化は子供が可哀想!

2000.1.25

2000年早々の独り言としては相応しくないかもしれないが・・・

先日、新聞(朝日新聞)の「少子の新世紀」というコラムに、小学校は「たった1人が存続左右」という記事が載っていた。記事の書き出しは、過疎と少子化で110年の歴史に幕を閉じた校舎を「がっこうそば」というそば屋にしたという内容であった。

全国の小学校は24、188校で、児童の減少に伴う統廃

合で1年に107校減ったとのこと。また、在校児童が1人だけのところが25校、335校は児童が1人もいないため休校になっているとのこと。

記事には、地区で10年ぶりの子どもに住民の目が集まり父母が悩む話、住民のUターンの呼び掛けに応じ移住した母と子の話し等が載っていた。

僕の故郷の町でもここ2、3年の間に2校が統廃合されたようだし、何時も「おじちゃん」と言ってくれる近所の子供もほとんど兄弟2人で遊んでいる。たまに友達が来ると、嬉しそうに「今日は誰々が遊びに来たんだ!」と報告に来てくれる。

キャッチボールもボール蹴りも相手は兄弟か壁・・・可哀想

5

だと思ふことが度々ある。

子供は、あまり気にしていないと思うが、同級生・兄弟貴分・弟妹分が身近にいないのは寂しいのではないかと思う。

自分が子供の頃を思い出すと、何処かの納屋に遊び陣地を作るのも、凧上げするのも、雪だるまを作るのも、ガキ大将に教えてもらい、また次の子に教えるのが普通だった。

大人が自分の学んだ校舎に郷愁をおぼえるのは無理もないと思うが、時はどんどん過ぎていく。

子供を学校存続に利用するのではなく、そば屋に変身させ郷愁を大事にするのも良いことではないかと思う。

とにかく、次の21世紀は今の子供時代になる。
必要あれば(本当は子供達に任せておけばよい筈だが)、大人は自分の子供の頃を思い出し、自分の目線を子供の目線に合わせ遊んでやりたいものである。



整理は難しい！

2000.2.10

今回の更新で「お遊び木工」のページを少し整理してみました。
理由は、思い付きの糸のこ細工作品を2、3種／月作り、その都度このページで紹介した後「お遊び木工」のページに収録していたのですが、1年も経つと多くなり、皆様にアクセスして頂くのに時間がかかり不便をお掛けしているからです。

身の周りの整理も充分できない者が、自分の勝手と思いながらもホームページに紹介している内容をどう整理したら、快く見ていただけるか？・・・ハタと考えこみました。

沢山見て頂きたい、詳しく見て頂きたい、アクセス時間は短くし、次の更新を気にして頂きたい・・・等々、自分だけの整理と違うところがあるのです。

昔、共通ファイルの整理に苦勞したことを思い出しました。

「整理法」の本もいろんなものが出版されています。

「ホームページの作り方」等の本も沢山見受けられます。

しかし、実際に手掛けだすとなかなか一筋縄でいかないようです。

やはり、みなさんのご批判を仰ぎながら、試行錯誤でボチボチとやって行く以外方法は無いようです。

一方、考えてみると(考えるまでもなく・・・かな?)、これは単なる身の回りの整理ではなく、小説を書く、雑誌を編集することと同じなのです。自分の集めた素材を、見る人・読む人を引き付け飽きさせないように整理する必要があるのです。

これは、「これで良い!」といった終点が無い難しい課題ですが、アツタクするには楽しい課題の一つの筈です。

この独り言を出発点にソロリー、ソロリーと楽しむことにします。

今回は考える前に走りだしたので、単に手元にあったものをまとめて写真に撮り掲載しました。そのため見難くなり、それぞれの意味合いが分からなくなってしまうようです。

引き続き改善していきたいと思っていますので、なんでも結構です、ご意見いただければ幸いです。



料理番組は楽し！

2000. 2. 25

最近寒い日が続くため家の中に居ることが多い。
家の中にいると見るでもないのにTVをつけっぱなしにしている
ことがよくある。

そのような時、ドラマが始まるとスイッチを切ることがあるが、
料理番組が始まるとついTVに目を向けてしまう。
それは料理番組が面白いからである。

特に料理が好きなからではないが、ものを作る過程がよく分かり、
参考になるからである。

コックさんのイメージがレシピという設計図？で示され、

それに沿った材料がそろえられる。どんな材料が良いか悪いかも教えてくれる。

作る道具や作り方のノウハウも見せてもらえる。

料理という作品ができると、食べるという作品の使い方？も教えてもらえる。人に自分の考えをアピールするテクニックも参考になる。

いうまでもなく、デザインから製作、使用までの一連の流れを手際良く、いろいろなノウハウを含め教えてもらえるのである。番組も非常に多く、それぞれに工夫が見られ面白い。

ホームページを作るにも、木工製品を作るにも、生活を組み立てるにもおおいに参考になる。

13

よだれが出るものがあれば自分で作ることもできる。

時々実践するが、まずはレシピ通りに作る事が無難である。

何度か試した後、自分の味を出すのがこれまた楽しい。

台所も楽しい工房・・・としたいものである。

そのうちに、Chalaの味を作品のページに紹介したいと思う・・・

何時になるかな？



「創造」には「想像」が欠かせない！

2000.3.10

木工作品等を作っていて、後で後悔することがたまある。
なぜか？・・・と考えてみると、どうも出来上がりを「想像」していないようである。

例えば、糸ノコでパズルを切り出す時、細かいピースにしていまい、組み合わせるのにピンセットが欲しくなるものがある。

これは、作業を始めると切り抜くのが面白く、つつい細かいところまで切ってしまうからである。つまり、事前あるいは途中で、結果を「想像」しないためであろう。

「こうすれば、ああなる！」「ああすれば、こうなる！」と、

15

結果を「想像」しながらことを進めると良い作品が「創造」できる筈である。

また、この「想像」が物造りの楽しい一過程でもある。

趣味であれば、結果は二の次で、「想像」が「絵に描いた餅！」であつてもよいのではないかとも思う。

この楽しい一過程を忘れ、手先だけを動かしていたようである。

反省、反省・・・。

これからは、「想像」を豊かにし、その過程を楽しみ、その後に結果オーライの物を「創造」するように努めたい。

人生もこうあるべきと思う！



17

Chiaki's home が満2歳一

2000.3.25

1998年3月26日初声をあげた Chiaki's home のホームページも満2歳になりました。
この2年間、当初の目標とした2回／月の更新をなんとか続けることができました。

最初の HTML での記述からホームページ作成ソフトウェアの利用、デジカメからの画像の取り込み、ページ構成の変更等々・・・まったくの試行錯誤でやってきた。

脳味噌の軟化防止と考え、気候なコンテンツであるが、ホームページを開設して良かったと思っている。

18

それは、更新をどうしようかと考えることにより、今のところ脳味噌の軟化スピードを鈍らせているようであり、またこのホームページを介して新しい人とも情報交換ができるようになったからである。

他方、ホームページのコンテンツにと趣味の木工や農作業の作品にもつい精を出すことにもなる。一石二鳥だけでなく三鳥にも四鳥にもなっている。

今後とも脳味噌の軟化防止のために、さらにはこれからの生活をより楽しくするため更新を続けていきたいと思っています。

コンテンツをより充実させるため、木工や農作物作りに、さらには町の催しの取材に精を出さなければならない・・・、昔の19

ことも思い出さなければならないし・・・ますます忙しくなりそうだ！

思い付くままのコンテンツですが、覗いていただいか方のご感想・ご意見を聞かせていただければ、より元氣百倍です。今後とも宜しくお願い致します。



地球も病んでいる!?

2000.4.10

有珠山が22年ぶりに噴火・・・

TVの報道画面を見ると、自然の前には人間は何も出来ないことを思い知らされた感じでした。

TVを見ながら、庭の草取りをしていて蟻の巣を壊してしまったような光景を想像した。幸いなことに我々は災害の徴候を察し、事前に何とか最悪事態を回避できている。

人間の英知を集めて作った道路も建物もマグマの溜め息にはひとたまりもない。

地球も病んでいるのか?

21

頭の毛(山の木)は切られ、皮膚はコンクリートやアスファルトで塗り固められ汗もかけない・・・地球が病むのも仕方ない・・・??

僕は子供の頃、良く「おでき」ができたことを思い出した。

原因は解らないが、秋、栗や芋を食べるようになると出るように覚えていて。体質もあると思うが、やはり食べ物を含め外的要因があったのではないかと思う。

このような時、母は膿を引出すためにドジョウやマムシの皮を患部に貼ってくれていた。効果はてきめんで膿を吸い出して数日で治るのが普通であった。

22

火山の噴火は物理的な現象で、身体にできる「おでき」とは全然違うが、人間様が余りにも地球の皮膚を掻きむしり、薬にもならないものを塗りたくっているから起こるのではないかと思われる。

火山の噴火にもドジョウやマムシのような特效薬が欲しいが：：今は望むすべもない。

しかし、我々には立派な頭脳が与えられている。これを最大限に働かせ、マグマの動きの先を読み、被害を最小限にすることはできる筈だし、刻々の報道でその様子が解る。

被災地の方々、特に家や家畜、農場を残し、着の身着のまま避難されている方々に心からお見舞いを申し上げます。

23

人間の力のおよばない自然の活動は見ているしか方法はないと思うが、一日も早く治まってくれることを祈っています。

マグマの御機嫌には直接関係ないと思うが、もう少し我々も自然に逆らわないで優しく対応し、地球を病気にかけられないように努めたいものです。



先日、5年近く愛用したノート形パソコンが昏睡状態？になってしまった。

なんとか回復すべく、育児書？を片手に、アアでもない・コウでもないを試したが目を覚ましてくれない・・・ついに覚悟して、生まれた時の雑念のない脳にしようと、脳（OS）の入れ替えをしました。

この結果、昏睡状態からは脱し目を覚ましてくれたのですが、当然ながら知能は生まれた時のままです。

記憶を辿り、保管していた育児資料？をもとに、早く5才の知能まで戻そうと頑張っているのですが、雑誌の付録から得たア
25

ップデートの育児資料？がどうしても見つからず、まだ元に戻っていません。

ホームページ開設に苦労を共にしたパソコンなので、早く回復させてやりたいと思っているが、育児資料？を行方不明にしたばかりに回復せず育児パパを悩ませています。自業自得かな・・・。

物を育てることは日頃常に行っていることですが、少し育つと、その過程や使った資料は忘れがちです。その過程のデータが無くなると、トラブル発生の際にパニックになってしまう・・・。
これはパソコンに限らず、成長する全てのものにあてはまると思う。

会社生活をしている時は、データの重要性をよく説かれ、自分もよく言ったものである・・・が、自分中心の生活になると、そのことをツイ忘れがちです。

今回の出来事で、やはりデータの保管は、何事に於いても必要なことを再確認した次第です。会社時代を思い出し、データの管理方法を改めて勉強しなければ・・・。

引き続きパソコンの回復にとめるつもりですが、回復が遅れると外出先でのホームページの更新ができなくなり、予定が多少変わります。

思い込みは無知より厄介!?

2000.5.10

前回、本ページで「育児資料?紛失で愛機パニック!」を書きました、原因が判明しました。

実は、愛機がパニックでなく保護者である自分の思い込みが愛機をパニックにしていたのである。

それは、愛機の脳味噌(OS)を更新したさい、内臓モデムのソフトウェアも当然再インストールされるものと思っていた(思い込んでいた)のですが、そのソフトウェアは更新時使用したOSのCD-ROMとは別のFDにあったのです。

愛機を購入時添付されていたCD-ROMとは別のFD群をチェックしていて気が付きました。

思い込んだら最後、いかに間違っているように疑う余地がないとばかりに、それは正しいものとしてしまふ・・・もし、解らない（無知）と思えば、いろいろな手段をこうじて調べ、解決にもっていくものと思う。

ここで「思い込みは無知より厄介!」と思った次第です。

在職時代も何か失敗し、その原因を究明して行くと、「思い込み」が原因なものが多々ありました。

やはり物事は、一步一步愚直に進めることが早道であることを改めて知った事件でした。

29

教材は本物がベスト!

2000.5.25

もうすぐ6月になるので、季節に因んだ細工物を考えていた時、梅雨時よく見かける「かたつむり」が浮かびました。

ところが、子供の頃からよく見かけ、知っているはずの「かたつむり」がどうにも絵にならない・・・殻はどちら向きに渦をまいていたか?、角?は2本の筈だがその下の方にも何か2本出ているような気もする?、等々・・・考えても記憶はボヤーとしたままでした。

子供の頃から見ていた筈だが、これは**観察**したのでなく、**眺めて**いたに過ぎなかったようです。

ではと、本屋に行き「かたつむり」を・・・でなく「かたつ

30

むり」の絵本や写真を探したが適当なものが無く、諦めて帰宅し庭の木を剪定していたら本物がいました。

これは神の恵み（誰かのおっしゃった「神の国」とは全く関係ありませんが）と作業を中断し、しかと観察した結果で作りました。本物は頭？を持ち上げていなかったが、それでは面白くないので少し威張った？姿にしました。

やはり、角？のようなものは上向きに2本、下向きに2本ありました。上側が先に出て続いて下側が出ました。

この経験から、記憶は無知に等しいことを知りました。と同時に、「**教材は本物がベスト！**」であることも痛感しました。

何事も、「記憶」や「うわさ」だけで判断するのではなく、実物で自分の目で観察した後判断することが必要です。しかしこれを実行することはなかなか難しいことですが、少なくともその必要性は忘れないようにしたいものです。

用済後の「かたつむり」は、元の所に戻してやりました。



言葉は通じないと意味がない！

2000.6.10

先日ラジオの介護保険制度に関する相談室で、次のような話を耳にしました。

（詳細は忘れかけていますが、次のような雰囲気のものでした。）

介護制度を受けようとしている70才位の男性の方が「介護の話で、ケアーマネージャーだとかショートステイ、デイサービスなど意味の解りにくいカタカナ語が良く使われますが、なぜそんな言葉を使うのですか？ 解りづらくて困っています。」

返事は、「外国の制度を真似ているので、そのような言葉を使

33

うことが多いのです。」

続けての質問、「日本語ではそれぞれ言うのですか？」。返事は、「法律条文では？？」。（余りにも堅苦しい文言なので忘れてしまいました。すみません!）とこれまた日本語ではあるが、一語一語ずつ考えながらでないかと解らないような言葉・・・。

その後も、同じような質問・返事が続いていたが、質問者の方がイライラしたのか、「説明を受けるのは自分のような年老いた者で、頭のよいお役人ではないんですよ!」で電話は終わりました。

この放送を聞いてフト思ったのです・・・聞いた人が理解できなければ、その言葉には意味がない!、内容が必要な人に解りやすく伝わらないと意味がない!・・・と。

こんな話は、世の中いっぱい有るし、自分もそんなことをしている一人だと思う。相手の立場になって物事を言う！・・・なかなか難しいと思うが気を付けよう。

追記・・

上の独り言をキーインした翌朝の新聞に、次のような記事が載っていました。

『官庁白書に外来語頻出、国語研調査「分りにくさの」の一因か』
と言った見出しで、中央官庁の白書にあふれる外来語の使用頻度を国立国語研究所が調べた結果が報告されていました。

白書の中で最も多用された単語は「サービス」だったとのこと
35

と。

終わりに甲斐所長さんの話として、「新しい響きがするといった理由で専門分野の外来語を公文書に転用しているようだが、高齢者にはわかりにくい。日本語の説明を併記するなど、読み手への配慮をすべきだ」と紹介されていました。

自分は、外来語が必ずしも悪いとは思わない。むしろ説明を併記しなくても読む人、聞く人に抵抗なく理解してもらえる言葉を使うように気を付けたいと思います。



雑草は強し!

2000.6.25

ただいま梅雨の真最中・・・故郷では田植えが終り、黒大豆の移植が方々で行われている。

ただ、きれいに植えられた稲田や黒大豆の植えられている田んぼの横に、休耕田として取り残され、雑草の天国? になっているところがある。そこに、春先植えたナスやピーマンが、助けてくれる人手がなかったため、草に覆われほとんど実が付いていない姿で恨めしそうに立っていた。

それに反し、雑草(昭和天皇は「雑草にも一つひとつ名前がある。」と言われたそうだが、自分は草の名前を知らないので雑草と言わせてもらう。)は元気に根を張り、花を付け、実をみのらせ、

37

いろいろな方法でその実をばらまき、子孫を絶やさないように努力している。

草払機で刈っても1週間もすると数cmも伸びる、除草剤を蒔いても2ヵ月近くになるとまた芽を出してくる。

「雑草のように育つ!」等、元気に育つことの例えにもあるように、雑草は自らして生命力旺盛に育っている。
羨ましいかぎりです。

どうも、人が面倒をみて、手を掛けたものほど、自然界では弱者になっているように思われる。

人が育てた動物は、それ本来の住処である森や湖に帰すること

38

が難しいと言われている。

人と人の付き合いでも、子供の育て方でもそのように思える。より良いものに育てることは必要だが、自然界で独り立ちし、お互いが共生できるようにすることも忘れてはいけない・・・と思うが、どんな方法があるのかな？？。名案を教えてください。



39

日陰もよく見よう!!

2000.7.10

先日、新聞の「惜別」の記事に動物画家、藪内正幸さんの記事が載っていました。

藪内正幸さんは必要に応じて、毛の一本、羽根の一枚まで書き込んだ動物画の「どうぶつのおやこ」など数々の絵本を世界各地に出版されているとのこと。

この記事で初めて藪内正幸さんの名前を知ったので、残念ながらもまだその作品は見えていませんが、気を引いたのは「写真と一番違うのは影を付けないこと。写真では見えないものが絵なら描けると言っていました」と言う仕事仲間の動物写真家、さとうあきらさんの言葉でした。

40

自分も少し前に紹介したように、少しでもデザインの幅を広げよう？とスケッチを気促に始めたのですが、やはり実物を見て描くのと、チョット無精して写真を見て描くのでは、ぜんぜん対象の理解内容が違うのです。

実物だと、この花の後ろはどうなっているかな？この葉の横はどうなっているかな？と新しいものを探し出すように描いていく（下手は下手ながら！）のですが、写真を見て描くと、暗部になっっているところは「どうしようもない！」と諦めて誤魔化すしかない。

日頃、このように写真的なものだけを見ての生活が多くあ 41

るようで、少し心寂しくなっています。

これは、写真（写真を撮る人）が悪いのではなく、それを見る人がどう見るかが大事なのだと思います。影に何があるかを見る目が大事だと思います。

光と影が強調されがちな世の中ですが、光の中にも醜いものがハイライトで隠され、影の中にも素晴らしい真実が有ることを見失うことなく、自分の目でしっかりと見極め、毎日を送りたいものです。



予測できること、できないこと・・・!

2000.7.25

ここ数日の間で、自然のできごとで、予測できること・できないことを楽しんだ。

予測できることの一つは、7月16日の「月食」です。

予測していなかったことは、ある朝の散歩（これも当日、内視鏡検査のため下剤効率を良くするため特別に歩いた）の途中で、道路脇に「かぶと虫」を見つけたこと。

その中間が、毎年梅雨の終わり頃自宅の庭に現われる「がま蛙」を見つけたことです。

43

「月食」は自分は計算できないが、ニュース等で正確な情報を知ることができ時分まで予測できる。

「かぶと虫」は全くの偶然、「がま蛙」は予測はできないが、今年も元気で姿を見せてくれた。

このように、自然界のできごとにも、予測できるものと、できないものがある。

しかし、その善し悪しはまったく別であると思う。

「月食」のように、数年に1回程度のものであれば、予め予測していないとなかなか見られない。今回も開始の時分まで調べた結果見ることができた。

「かぶと虫」のように、まったく予測していないものに遭遇

すると、別世界にいるような気分になる。

「がま蛙」は、日頃予測はしているとは言えないが、潜在的に予測していたのか、目にしたとたん「おお、今年も出て来たか……！」と懐かしくなる。

このように、予測できること、できないこと織りまぜ、心を和ませてくれるできごとを経験しました。

これからも、いろいろなことに遭遇する筈であるが、予測したものは予測した通りになっているか？ 予測していなかった場合は、遭遇したものは何だろう？と興味を持って楽しみたいものです。

それにしても、有珠山、伊豆諸島での地震はある程度予測されているようですが、予測できても自然の動きには太刀打ちできず、当地の方々の苦労は大変なものと思います。

これだけは、予測の域を脱し、一日も早く大地の揺れが治まることを願っています。



学校が夏休みに入ると、NHKのラジオ放送で「科学電話相談」という番組が始まります。

この番組は、電話で小学生を主とした子供達が、電話で動物のこと、植物のこと、天体のことなどで疑問に思ったことを訊ね、それに専門家が答えるというものです。

子供の質問、それに対する答えのやり取りが、大変面白く、大人の自分にとっても楽しい番組です。

まず感心するのは、子供の質問です。

よくこんなことに気が付くもんだと驚くことが多々あります。例えば・・・

47

・ 宇宙には果てがあるのですか？（小5年）

・ 蝉はご飯を食べているのに、なぜ1週間で死ぬのですか？（6才）

・ ホタルは何のために光るのですか？ 光らないホタルも居るのですか？（小3年）

・ 皆既月食を観察したのですが、どうして欠け始めと欠け終りでは場所が違うのですか？（小4年）

等々、子供だから気が付き、疑問に思い、質問するものばかりです。

大人であれば、詳しい答えは知らないくせに、そんなこと当

りまえではないか・・・と思うものばかりです。しかし、大人になっても、このような新鮮な疑問を持ちたいものです。

さらにこの番組で感心するのは、先生が、子供の目線で見て、子供のレベルで解かるように説明することです。また、先生は必ず子供が、観測を続けるように話したりして、新しい疑問に遭遇するようなヒントを与えたりしています。

子供（大人でもあるが）の知識や行動を豊かにするには、このような素直な疑問を持たせることが必要であり、その目を潰すことなく反対に興味を増幅させることが重要なのだ・・・と、この番組を聞くたびに思います。

それに引き替え、国会の討論を聞いているとガッカリしま

49

す。

質問は、人は変われど内容は似たり寄ったり、答弁する方はそれに輪をかけて何度も何度も同じ文章の朗読・・・子供から「国会では、なぜ同じ文章を何回も読んでいるのですか？」と質問されたら、どう答えたら良いのだろうか？

「社会電話相談」の番組があるとよいのだが・・・。



自然との共存は難しい??

2000.8.25

お盆を田舎で過ごし、途中渋滞に巻き込まれながら帰宅して感じたことです。

田舎では過疎化・高齢化が目立ち、山や農地が荒れている。下水道等生活環境は改善されつつあるが、一方で道路や河川はコンクリートで固められている。

盆踊りや花火大会も、昔にくらべ寂しくなっている。自分が小学生のころは、お盆といえば3日3晩踊り明かしたのだが・・・今ではカラオケやミニ花火を含めて3時間ほどの催しになっている。

51

帰省中、目にした資料のよると、母校である小学校も6年先には現在の児童数の三分の一になりそうだとのこと。このままだと、学校統合などにもなりかねず、「小学校の存続を考える会」が結成されたようです。

一方、自宅に向かう高速道路に入ると、上るほどに自動車の列・・・止まるでもなく、走るでもなく、排気ガスだけをまき散らせている有様。幸いかな？自動車の中はクーラーが効いてなんとか暑さをしのいでいるが、その熱は外に出しっ放し・・・自分も同罪と知りつつも、身を守るため同調。

これでは、地球でなく地球環境の発熱も当然・・・解熱の特効薬も無く、周りはモヤーとして、目がショボショボする有様。

52

こんな状況で考えるのは、「これから末永く自然と共存できるのだろうか？」ということです。緑豊かな山は荒れ、人の集まるところは土も見えなくなり温暖化現象に輪をかける・・・
なんとかしなければと思うが、今のところ、小さな庭に水を撒き、植物を元気にしながらクーラーを使わないように努めるくらいのことしかできない・・・残念！



自然は取り戻せるだろうか？

2000.9.10

前回の「自然との共存は難しい??」に続いて、自然との関わりについての独り言です・・・

先日、NHKのクローズアップ現代「干潟はよみがえるか」の番組を見て、自然に対し人間がした失敗?を補うために後付けでいろいろ努力しているが、なかなか報われていないことを知りました。

それは、自分の都合により自然を傷つけ、その結果が別の面では思わしくなく、慌てて少しでも元の状態に戻したいと努力している。しかし、なかなか巧みかい・・・

であれば、なぜ結果を考えず行動に走ったのだろうか?と思う。

内容は、海岸線等の工事で失われた干潟を取り戻すための苦労話でした。

海中に砂止めの堤防を作り、砂を持って来て人工干潟を作るが巧みかない。

盛った砂が沈下して干潟にならない。意図した生物が泥に覆われ死んでしまう。

なんとか、生物が住める干潟が取り戻せないかと、各所の研究機関が研究・実験・試行を繰り返している。

考えてみると、何百年、何千年を経て自然が作ったものを、人間の都合で壊した。

55

そんな積もりではなかった、そうなるとは思っていなかった・・・と言っても「後の祭り」的なものが殆どだと思う。

人間が最も賢い?・・・と言っても、これは当事者の人間が思うことで、実際は自然の営みのほんの一部、それも自分に都合の良いことしか解っていないと思う。

自然に触る場合、事前にアサリやゴカイ等々、そこに住んでいる人間以外の生物等や環境にも良く意見を聞く必要がある。

そうしないと、人が最も頼りにすべき自然が無くなり、結果として人にしつぺ返しが来ることになる。繰り返しになるが、自然と何時までも仲良く暮らしたいものである。

56

草との格闘も健康の糧??

2000.9.25

約1カ月振りに帰省しました。

1カ月ほど前はそれ程気にならなかった、休耕田の草も取り入れ中の稲に負けないくらいに大きくなっていました。

翌日から、草との格闘が始まりました。

23位のシャフトの片側にエンジン、反対側に回転刃の付いた刈払機で草を刈る。

無理をしないよう、毎日午前中2時間位づつ作業し、1週間が過ぎました。

心地よい秋風を感じながら、トンボの応援を受けての作業ですが、2、30分も過ぎるとサウナ風呂に入っているように汗でビ

57

ッシヨリ・・・途中、冷たいウーロン茶を補給し、終ればシャワーを浴びる。装甲車のようなコンバインで、稲の取り入れをしているのを横目にしての肉体労働ですが、考えて見れば、健康的な作業です。

アマチュアだから、こんなことが言えるのかもしれませんが、自然の中で、汗を流し、作業の成果が目に見える・・・草には申し訳けないが、健康の糧になっていると思う。その証拠に、8日目に雨で、作業をしなかったら、なんだか身体の調子がおかしいような気がした。

まだ相手にする草が残っているので、腰の回転をしすぎないよう気を付けながら、頑張ろう・・・そして元気モリモリ!!。

とにかく、頃は秋・・・自然からの恵を健康の糧とすると同

58

時に、秋空のもとでの草との格闘も健康の糧としたいものです。

先日ので、TVで、「山も、人が手入れすることにより里山になり、そこに昆虫や草花が数多く集まるようになる。」との話がありました。

自然の手入れで、自分の健康と自然の豊かさを持続したいものです。



レシピ通りの料理ばかりでは・・・

2000. 10. 15

食欲の秋・・・なんでも美味しい季節になりました。

自分でも、気が向けば料理をすることがあります。

レパートリーは、焼飯、アサリの酒蒸し、お好み焼き、タコ焼き・・・等々ありふれたものが多いが、時には料理の本をめくって見ることもあります。TVでの料理番組もよく見ます。

初めてのものを作る時は、まずレシピ通りにします。それは、まだその料理の味や美味しさを知らないからです。一度、レシピ通りに作り、その味を知る。次に作る時は、必要あれば自分の好みに変える・・・しかし、2度目に作る時も、殆ど前の味を覚

えていないので、またレシピ通りに作ることになってしまいます。

まあ商売でなければ、専門家の作った設計図通りに作り、それが良いものだと思えば、すれでよいと思います。

しかし、それは模倣であり、自分の個性は何も無いはずですよ。

料理の場合も、専門家の味に舌鼓を打つのも良いが、時には自分の味も作って見たいものです。

木工や絵などでは、他の人の作品を参考にすることはありますが、自分の味（独創性）をどう出すかが、最も楽しいところでもあります。

このホームページを作っているのも、その楽しみを味わいた

61

いからです。

これから、ダンダン脳味噌の活動が弱くなっていくはずですが、そうはさせじと木工やホームページの創作に頑張りたいと思います。

料理にも、自分の味のレパートリーを増やしたいものです。



自然は素晴らしい芸術家！

2000.10.31

頃は秋・・・庭や山の木々は、素晴らしい装いを始めました。
自宅の庭に、還暦を記念して、家族が植えてくれたハナミズキも、秋を迎えた葉っぱが紅葉しています。

一つの葉っぱの中にも、緑から赤まで見事な配色です。
公園や遠くの中にも、このような葉っぱの集まりで、これまた見事な配色を演出しています。

このように、自然はそれぞれのタイミングを忘れることなく、素晴らしい光景をわれわれの前に見せてくれます。
われわれ人間も、自然を壊すのではなく、返礼として、素晴らしいものを自然に向かって発信したいものです。

63

木工作家や大工さんが、「元の自然な形状や表情を生かした作品を作る。」「木が生きてきた年月を超して住める家を作る。」と言われるのをよく聞きます。

このように、木々の表情を最大限引出し、育ってきた力を充分に使わせてもらうことが、木々に対するせめてもの返礼ではないかと思っています。

木工を趣味としている自分も、この気持ちを忘れないようにし、楽しませていただきます。



64

立読みは図書館で！

2000.11.15

本ページの「Town」の項にも紹介しますが、この度、町の図書館が新装オープンしました。オープンの初日、早速出かけてみました。

新装の図書館は、面積もゆったりしており、オープン書架エリアの付近にも椅子が用意されており、書架から取り出した本にゆっくり目を通すことができます。

検索コーナー、AVコーナー、CD-ROR閲覧席等も完備しております。

今まで、何かを知りたい時は書店に行き、ちょっと立読み

65

などで用を足し、あまり図書館を利用していませんでした。しかし、書店での立読みではメモも取れず、家に着くともう記憶の外になっていることが度々でした。

図書館では、気楽に立読み？（椅子に座って読んでも立読みかな？？）ができ、メモも取れるしコピーもできる。立読みで不足ならば、借出すこともできます。

さらに便利なのは、書店には無い雑誌のバックナンバーや新聞の縮刷版、全国の電話帳まで揃っていることです。

これから、おおいに利用しようと、早速利用カードを作りました。

図書館とは便利な所と思いますが、今まであまり利用していませんでしたのが悔やまれます。

66

今回の図書館の新装を見て、目からウロコが落ちた？気持ちになりました。
これからは、事ある毎に図書館での立読み・・・いや、座り読みに楽しみたいと思います。
自分の知恵袋が新しく出来たような気持ちで・・・。



67

備えあって憂いなし！バックアップ無くて右往左往？

2000.11.30

先日、頼りにしているパソコンが突然機嫌を損ねました。
原因不明のまま、いろいろ回復に努めましたがなかなか機嫌を直してくれません。
仕方なく、手元の雑誌を参考にOSだけのリストアーを試したがやはりダメ・・・ハードディスクの診断・回復ソフトウェアをかけると、「回復できません」のメッセージ・・・。
仕方なく最後の手段と、ハードディスクを初期化することにし、CD-ROMのOSを使ってできるだけのファイルを外部ディスクに避難しました。

68

しかし悲しいかな、2年あまりの間に溜め込んだ内容がどのように入っているかも理解できず、回復を急ぐ気持ちが一先になり、「まあなんとかなるだろう!」と適当な?ところでハードディスクを初期化しOSを入れ直しました。

無事、意識を回復し応答を始めてくれたのですが、産声を上げたばかりの状態でした。

親として、少しでも早く育ってほしいと、ちょっと寂しくなりかけた知識と過去使用した育児用具?を取り出して再教育に努力しました・・・している最中かな?

完全に元には戻っていないところもあるようですが、親の言うことはなんとか聞いてくれるまでになりました。

考えてみれば・・・

会社時代は、コンピュータは非常に素直で?バックアップしていないものは電気が切れると記憶喪失になってしまう。内臓ディスクもトラブルがあると頼りにならない時がある。したがって、作業中の内容を含め「必ず別にバックアップを取って置くよう!」と何時も言われ、また言っておりました。

パソコンも性能が向上しており、個人的な内容はたいしたことないと油断していたのが悪かった!と言っても後の祭り・・・性能が向上したといってもトラブルが無いとは保証されていません、個人的な内容と言っても時間を追って内容は膨大な量になっていきます。

自分の脳味噌の外部置場となっているパソコンの脳が、産声を上げたばかりの赤ちゃんの脳味噌になったら・・・これは一大事！

時代は進歩しても、災いが無くなるとは言えません！

災難は忘れた頃にやってくる！

備えあって憂いなし！

バックアップ取って慌てることなし！

とにかく、災難に会っても、憂いの無いようバックアップは確り取って置くよう努めよう！
と・・・。

2001年の初日の出は格別か？！

2000.12.15

20世紀最後の年、2000年も残すところ10数日・・・ 新聞・TV等では、何でもかんでも「20世紀最後の・・・」と、枕詞が付く今日この頃です。

先日、表紙に「20世紀最後の晩餐」と大見出しの雑誌が目にとまったので、「最後の晩餐」とはどんなものかな？と覗くと、何時食べても美味しそうな料理の紹介でした。

その枕詞は、毎日サンデー？の我が身にとって「そうだな！」といった気持ちになれないところもあります。（自分のヘソがチョット横を向いているのかな？）

「20世紀が終わり」は世紀になるのは確かですが、世紀と言ったスペインが寿命より長いので、ピンと来ないのかもしれませんが、一つのマイルストーンとして考えるとよいとは思いますが・・・、このような世紀変わりを経験できない人も居ることを思うと、何のマイルストーンなのか？と思うのです。

年の単位であれば、一つ年を加える意味で、自分のマイルストーンとして、過去を振り返り、新しい年を考えるのに役立っていると思うのです。

しかし、これからの100年がどうなるのだろうか？・・・と考えると、それは空想物語になってしまうような気がするのです。

例年**初日の出**を迎えに行っているので、2001年の元日も行73

こうと思っています。

しかし、世紀が変わるという気持ちでなく、例年と変わらない気持ちで、**初日の出**を迎えるだろうと思います。

年が明けると、今度は、何でもかんでも「21世紀初の・・・」といった枕詞が付くものと思われまます。

デジタル時代といっても、世の中はアナログで変化するものです。

世紀が変わっても多分そうだろう思います。

20世紀が終わり「21世紀になるが、言葉に惑わされることなく、例年のように、新しい年がより良い1年でありますよう

に・・・と**初日の出**を迎えに行こうと思います。



光陰矢の如し！

2000.12.31

賑やかだった？ 2000年問題も、事なく過ぎてからもう1年経ってしまった・・・2000年問題が何であったかを忘れてしまったような時間がアット言う間もなく過ぎてしまったと言った方がよいのかな！？

時間が経つのが早いのか？ 記憶能力の衰えるのが早いのか？
とにかく、また**新年**を迎えました。

時間と言う物差を考えてみると面白い・・・？

1世紀と言うと長く感じる・・・1秒と言うと短く感じる・・・
これは当然なことであるが、日常の生活を考えると、1年は

どのように感じるのが普通なんだろうか？

年代、世代によって異なると思うが、経過した時間がなんとか記憶に残っており、これからの予定が思い浮かべられるのが1年の長さではないかと思っている。

しかし、だんだん脳味噌が固まってくると、1年もその負担に堪え難くなってきた。

したがって、1年が経つのも「光陰矢の如し！」と言った気持ちになるのも仕方ないことなのかもしれません。

しかし、1年は365日（366日のこともあるが）にかわり無く、これからも過ぎた1年はなんとか脳に貯えて置き、その上に新しく迎える1年の計画を描きたいと思っています。

